

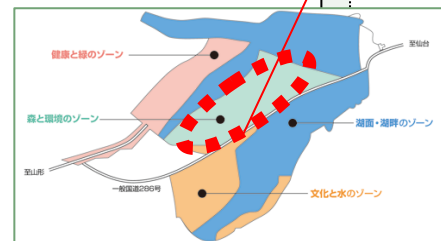


みちのく森の楽校だより 第9回

みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



12月20日（土）晴れ 年末餅つき！

森の楽校の第9回は、12月の末、年末です。今年は開園という大きな節目の年でした。そこで、新年の準備として餅つき！南地区・ふるさと村から杵と臼を借りました。もち米は共生園産の米の他、皆で持ち寄り。味付けは、あんこ、ずんだ、大根おろし、納豆、生姜醤油に川崎町風の御雑煮。会員、ボランティアが力を合わせて、ワイワイと楽しく年末を味わいました。来年もよい年になりますように！

餅つき！

前日から米を研ぎ、水につけておきます。臼には水を張り、杵は水に浸しておきます。小豆は2日かけてじっくり煮ました。当日は7時半に集まり、火起こしをしてたっぷりのお湯を沸かして、準備万端！

今回は2升臼を4回、8升の餅をつきます。2升ずつ蒸し米を臼へ入れ、強い力で杵でこねます。ここは大人の出番。じっくりとコネたら、いよいよ餅つき。子どもたちも交代でつきました。つきあがった餅は、食べやすいように干切りしました。大賑わいの餅つきでした！



石臼きなこ

きなこは、青畑豆を炭火で炒って、石臼で挽いたもの。香り高いきなこができました。



お餅いろいろ

あつあつのつきたて餅！いろいろな味付けにしました。



鏡餅づくり

最後についた2升は鏡餅にしました。手慣れたボランティアがくるくる回すと、丸くなって行きました。ちょっとこれは誰にでもできるという訳にはいきません。

それを12月28日に重ねて、和紙を切って紙垂(しで)を作り、小野分校に飾りました。今回は、裏白が見つけれなかったので、少し略式ですが…。

橙(みかん)＝子孫が代々(橙＝ダイダイ)栄えるように。

御幣、四手＝四方に繁栄するように。赤と白を使うのは魔よけの意味もあるそう。

裏白＝古い葉と新しい葉と一緒に成長するシダの葉の特徴から末永く繁栄するように。

これは、鏡開きまで飾っておきます。皆さまも小野分校で見てくださいね！



薪割り

午後は、本格的な寒さに向けた冬支度として、薪割りをしました。

手のこで玉切り。これは小野分校の薪ストーブに合わせて長さを40センチにします。

薪割りは斧や鉈を使います。電動の薪割り機も使いました。蔵王降ろしが吹いてきた寒空の中、汗びっしょりになった活動でした。



薪積み

割った薪は使いやすいように、小野分校の下屋に積み上げています。薪は、割って木肌を多く出すことで乾燥を促進するという意味もあります。割った薪は崩れないように、きちんと積んでいきます。

一部は、自然共生園でも使ってもらいます。

